



第1戦

OKAYAMA GT 300KM RACE

岡山国際サーキット

予選 4月11日(土)

天候: 晴れ・曇り コース状況: ドライ

2026年SUPER GTシリーズは岡山国際サーキットで開幕。今季INGINGのチーム体制は加藤寛規監督、堤優威、昨年チームに加入した20歳のト部和久という新しい布陣で臨むことになった。メインスポンサーは洗車専用の浄水ユニット「ハイパーウォーター」を開発・製造する株式会社マーフィードが継続支援、カラーリングもマットブラックで変更はない。搬入日の10日午前中は冷たい雨が降ったが、予選日は朝から晴天に恵まれた。

予選：2位



2026年シーズン開幕。チームは3月に岡山と富士での合同テストを済ませ、改めて岡山へ入った。青空が広がり気温15℃ほどやや冷んやりとした9時30分に公式練習が始まった。このセッションではト部が30周と多くの周回をこなし、堤はセッティングとその確認を重点的に走り、そして1分26秒348というベストタイムをマーク。GT300車両全29台のトップに立ち、幸先の良いスタートを切ると同時に予選への期待が高まった。

サポートレースが併催されないため、比較的ゆったりめのタイムスケジュールとなったが、ピットウォークを終え気温25℃、路面温度34℃の14時に公式予選Q1がスタート。GT300クラスは参加車両が29台と多いため、今回は昨年のシリーズ順により2つのグループに区分され、HYPER WATER INGING GR86 GTはB組となった。そしてそのセッションは14時18分から10分間で争われた。

このB組は14台で上位9台に入ればQ2への進出となる。昨年Cドライバーとして登録されたものの、初の公式予選を走ることになったト部がコースイン。A組の9位は1分26秒台半ばであり、そのあたりがターゲットタイムとなる。しかし開始5分が経過したところで1台の車両がコース脇でストップ、セッションは赤旗が掲出され中断となった。6分後に再開されると、ト部はタイヤに熱を入れながら4周目に1分25秒920で4位につけた。そして次の周に1分25秒668で3位につけた。その直後にト部のタイムを上回る車両があり、結果的には5位となったが、難なくQ1を突破。Q2への進出を決めた。

GT500クラスのQ1でもアクシデントが起きた影響で、GT300クラスのQ2は予定より21分遅れの15時14分に始まった。堤は3周かけてタイヤを暖め計測4周目にアタックに入った。そして1分24秒823というタイムをマークして2位につけた。その直後に1台の車両にタイムを上回られたが、その車両はコース外走行(4輪脱輪)のためにベストタイム抹消となり、堤は2位に繰り上がることになった。

これで決勝はフロントローからのスタートが確定。表彰台の中央を目指す300kmレースは、明日の13時20分にスタート予定。

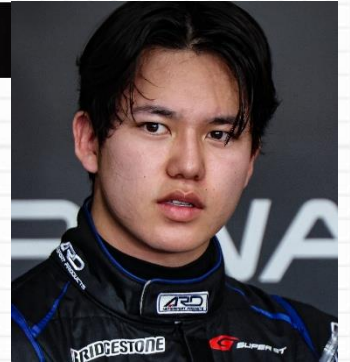


ドライバー 堤 優威

「トップとは大きな差がありました。僕は正直100%、ほぼノミスで決め切りましたし、こんなタイムも出るのだと思うぐらいでした。それでもコンマ3秒ぐらい届かないというのはきついですね。ストレートが速いというクルマとの差です。でも向こうは一発の出るタイヤという可能性もあるので、僕らはブリヂストンタイヤの強みを生かしてロングで巻き返すことができればいいなと思います。岡山は抜きにくいコースなので、チャンスがあってトップを抜くことができれば。初レースとなるト部選手にはプレッシャーのかかるポジションですが、チーム全体でうまく作戦を立てて楽にさせようと考えています」

ドライバー ト部 和久

「いつもどおりやればQ1は通ると思っていた公式練習の順位でしたから、大きなリスクは取らず絶対対選手につなげるぞという気持ちでQ1に臨みました。アタックラップはそれなりにまとまりましたが、可もなく不可もなくという感じのアタックだったと思います。実際乗ることになると、多くのメカさんやエンジニアさんに支えられ、スポンサーさんからも大きな支援をいただいているので、責任感を大きく感じました。明日はミスなくトラブルなくペナルティなく、自分たちのベストを出し切りたいなと思っています。もちろん表彰台の真ん中に立つつもりで挑もうと思っています」



監督 加藤 寛規

「ト部は初めての予選で無事にQ1を通過してくれましたし、そこからのコメントでクルマのセッティングを修正し堤が本当に会心のアタックを決めてくれました。トップの車両に届かない部分は仕方がないと思いますが、内容的にすごく良かったと思います。ただ決勝ではストレートの速いポールポジションを取った777号車アストンマーティンと、後ろに31号車LC500hがいますから、難しいレースになるかなと予想しています。表彰台には乗りたいですね。スタート時の混乱でうまく前に出ることができて単独でトップになれば優勝の可能性も高まりますが、後続に飲み込まれてしまうと苦しくなるので、そうなった場合どうしようかと万全の策を考えています」

